

# Ability of 18F-FDG PET/CT to diagnose recurrent colorectal cancer in patients with elevated CEA concentrations

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2010-09-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 京藤, 幸重 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001150">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001150</a>

順天堂大学 博士(医学)

氏名 京藤 幸重

論文題目 Ability of 18F-FDG PET / CT to diagnose recurrent colorectal cancer in patients with elevated CEA concentrations

(大腸癌治療後 CEA 高値症例の再発診断における 18F-FDG-PET / CT の診断能)

論文内容の要旨

【目的】CEA 値レベル毎の大腸癌再発診断能を検討し FDG-PET / CT の有用性を明らかにする。

【対象】大腸癌の術後に CEA 高値 (> 5ng / ml) があり大腸癌再発 (疑い) にて PET / CT が施行された 57 症例 75 検査。

【方法】直前の CEA 値 (5-10 群, 10 < 群) 毎に FDG-PET / CT の診断能を検討した。FDG の異常集積は視覚的に判定した。最終診断は病理診断あるいは 6 ヶ月以上の臨床経過により決定。再発症例については腫瘍容積を算出し CEA 値との関連性を検討した。

【結果】2 例で重複癌(肺癌) を検出した。残り 73 検査中 54 例 (有病率 74%) で再発陽性であった。PET / CT の感度, 特異度はそれぞれ 93,74% であった。PPV, NPV はそれぞれ 91,78% であった。LR+, LR- はそれぞれ 3.52, 0.01 であった。CEA 値の分類では感度, 特異度はそれぞれ, 5-10 群 (有病率 64%) : 88,78%, 10 < 群 (有病率 79%) : 95,70% であった。再発症例においては CEA 値と腫瘍容積の間に有意な相関がみられ, CEA が 5ng / ml 以上の場合, 再発腫瘍は PET / CT で検出出来る十分な大きさであった。

【結論】PET / CT は上昇した CEA 値に関係なく高い大腸癌再発診断能を有し有用である。